



発行者
クイーンズランド
日本語補習
授業校校長
丸山吉信

今後の予定

- 八月十六日
 - ・ BNE 授業参観 & 学級懇談会
 - ・ GC 補講一回目 (要お弁当)
 - ・ GC 第二回運営委員会
- 八月三〇日
 - ・ GC 運動会 (予備日九月六日)
 - ・ BNE 理科学習の日
 - ・ BNE お弁当広場
- 九月六日
 - ・ 合同運営委員会
- 九月十二日
 - ・ GC 補講二回目 (要お弁当)
- 九月二〇日
 - ・ 第二学期終業式・成績通知表配布

BNE 授業参観 & 学級懇談会

五月三十一日に工事のために中止となった参観日の振替は、前回同様のプログラムで十六日に実施します。

- ・ 幼稚部 参観、懇談会ともに実施済
- ・ 小一 一校時授業参観、懇談会済
- ・ 小二 二校時授業参観、懇談会は中止

- ・ 小三 三校時授業参観、懇談会は三年教室で十二時〜十二時二十分
- ・ 小四 三校時授業参観、懇談会は職員室で十二時〜十二時二十分
- ・ 小五〜中三 二校時授業参観、懇談会は各ホームルームで中休みに実施

BNE 理科学習 (五年〜中三)

ブリスベン校で今年を「理数年」とした取り組みをしていることは、前号でお知らせしました。今回は、小五から中三までの内容を報告します。

MRJ という三菱の国産ジェット機や千葉大学が産学共同で進めている無人飛行機「ドローン」、千葉工大が世界ロボットサツカー大会で優勝したニュースに見る日本のロボット技術、日立ハイテクが学校に貸し出している卓上型電子顕微鏡「ミニスコープ」、完全養殖に成功したクロマグロとうなぎなどの最近の話題に接するだけでも日本がいかに科学技術立国であるかがわかります。そして、大人たちのこのような成果を支えている基礎は日本の初等中等教育における

理数学習にあるのではないかと思われまます。英語のできる両補習校の子どもたちが理数の世界の楽しさに触れ、興味を広げたなら、世界が変わるかもしれません。

今、日本経済新聞社では、そのような未来を担う子供たちが想像する百年後の世界の物語を募集しています。理学的発想を問う文学賞「第二回星新一賞ジュニア部門」です。規定字数は五千字 (原稿用紙十二枚半)。締切は九月三〇日。果たして、一〇〇年後は宅配をするクロネコマークのドローンが頭上を飛び交っているのでしょうか。是非応募してみてください。

<http://hoshiaward.nikkei.co.jp/junior.html>

小五

教科書を開く前に、「空全体を十とすると、雲のしめる量がどれぐらいのときに『晴れ』『曇り』というでしょう。」と質問したところ、様々な意見が出ましたが、雲が半分の五より多ければ『曇り』、五より少なければ『晴れ』という結果に落ち着きました。そこで、教科書四ページを開いた子どもたちから「えーっ!!」という声が上がりました。〇〜八のとき『晴れ』、九〜一〇のとき『曇り』というのが正解でした。そのことを四、五ページの

写真で確かめました。次の質問は、「どんな種類の雲を知っていますか。」子どもたちから出たのは「羊雲、入道雲、・・・など」で、どんな雲かも説明してくれました。続けて六、七ページ・雲の種類とその雲が見られる季節や天気について調べ、理科用語でいう雲の名前と一般に使う雲の名前を確かめました。けん雲 (すじ雲)、積雲 (わた雲)、そう積雲 (うね雲)、らんそう雲 (雨雲)、積らん雲 (入道雲)、かみなり雲) です。天気は、私たちの日常生活に大きく関わるものなので、興味を持って学べていたように思います。

小六

六年生の理科はものの燃え方という単元を学習しました。実際に火を使つての実験はできませんでしたが、教科書の写真や、キャンプの時の実験等を元に物が燃えるには酸素が必要だということと目に見えない気体の集め方の学習をしました。また酸素が通りやすいように BBQ コンロに空気穴があることや焚き火の薪の置き方も酸素が通りやすいように工夫することによく燃えるということを実験しました。

中学一年は、光の屈折について学習しました。屈折や全反射による、コインの発現や消失の実験をしました。またレーザーポインターを使って、実際に光が屈折、全反射するところを観察しました。直進する光が、これらの性質で光を曲げることができ、その利用の一つとして、光ファイバーがあり、現在のインターネットの発展に大きく貢献していることなども学習しました。この様な実験を通して生徒たちの興味、関心が大きくなったこと実感する理科学習でした。

中二(中二は社会)

先週の歴史は、平安時代の導入で終わりました。一学期に勉強した「枕草子」を生んだ時代で、清少納言に並ぶ紫式部の「源氏物語」も生み出した時代がどのようなものであったかを見ました。

中三

教科書三く七ページぐらいまで、生徒と一緒に読みました。生命にかかわる内容で、無性生殖や有性生殖の発生が、細胞分裂によって起こること、染色体やDNA、遺伝子の図の観察をして、遺伝情報の伝わり方や、優性、劣性の意味を学習しました。

小六算数

小六算数と中一数学担当の先生から八月二日の六年生の授業で面白い宿題が出されましたので、ここに付け加えておきます。

「地球の周囲が約4万キロというのは、どのようにして測定されたか。」星の王子様がメジャーで測ったわけではありません。ヒントは「太陽」とのこと。

全校朝会スピーチ

七月十九日

GC 中三 岡川祥尉

皆さん、今年のワールドカップを見ましたか。今年は南アメリカのブラジルで開催されました。皆さんは今年、どの国が優勝したか知っていますか。そうです。今年は、ヨーロッパのドイツが優勝しました。

ワールドカップは一九三〇年七月十三日に初めて、ウルグアイで開催されました。偶然にも、初回ワールドカップは開催国のウルグアイが優勝しました。今年の二〇一四年ワールドカップは二十回目でした。今回の開催国のブラジルはドイツに準決勝で敗れました。

今回の日本のサッカーチームには、本田圭佑や香川真司などヨーロッパ

で活躍している選手が集まっています、今までの中で最高のチームだと期待されていました。しかし、残念ながら、予選グループの中で最下位でした。今年、僕はもちろん日本を応援していますが、真つ先にズタズタにされたので、もうどうでもよくなりました。次回、二〇一八年のロシアワールドカップでは、ぜひ決勝まで行ってほしいと思います。皆さんはどの国を応援していましたか。

そして、もうひとつ、今回のワールドカップで日本のチームよりも世界から注目を浴びたのは、チームを応援する日本のサポーターたちでした。コートジボワールとの第一戦終了後、負けた試合にも拘わらず、サポーターたちがスタジアムの掃除をしていた姿が世界中の話題となりました。負けた試合後、ファンがゴミや物を投げたりすることがよくあります。だから、日本人のマナーの良い姿が世界中から称賛されました。僕はこの話を聞いて、日本人は素晴らしいと思いました。オーストラリアに住んでいると、日本の素晴らしい文化や習慣に触れることが少なく、忘れてしまいがちなので、皆さんもこんな日本のいいところを見習って忘れないで下さい。

国語授業から

四年生国語の単元で自分の考えを述べる文章の書き方を学びました。次の作文は、単元の学習の後に「自分の生活と重ねて書く」という課題に基づいて書いた児童の作文です。この単元の学習目標をよく理解した書き方ができていますので、紹介します。

「動いて、考えて、また動く」

GC 四年 キッドソン大誠

日曜日にぼくは家族とテニスをしました。ぼくは、最初はうまくできなかったのですが、お父さんがずっと勝ちました。しかし、そのうちだんだん上手にできるようになりました。

なぜなら、ぼくはどうやったら球が真つすぐに飛ぶかを考えたからです。まず、ラケットを野球のバットみたいにふりまわさないことです。ふりまわすと、ボールは思っている所に行きません。次に、ラケットをしっかりと持って、ラケットの真ん中でボールを打ちました。そうしたら、ボールは反対の方にしっかりと飛びます。

これらに気をつけたら、お父さんに何回か勝ちました。もつと考えてテニスを上手になりたいです。